



2018年 あけましておめでとうございます



核兵器のない世界の実現へ、飛躍の年に

人類史上初めて
核兵器は明文上も違法に

新しい年、2018年を迎えました。
今年、核兵器のない世界の実現へ、諸国政府と市民社会が力を合わせ大きく飛躍する年です。

2017年7月7日、核兵器禁止条約が、国連加盟国の6割を超える122か国の賛成で実現しました。核兵器に「悪」の汚名が着せられ、人類史上初めて明文上も違法化されました。9月20日から政府による署名が開始され、すでに56か国が調印しています。

核兵器禁止条約実現に貢献した核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）がノーベル平和賞に選ばれたことは被爆者と市民社会の努力への世界の賞賛でした。12月10日、オスロの授賞式での被爆者セツコ・サローさんのスピーチは、世界に中継され、深い感動と共感がひろがりました。

日本政府は禁止条約に
いますぐ調印を

いま日本政府に世界が失望し、被爆者も怒りの声を上げています。それは、核兵器禁止条約に日本が「反対」の態度をとり続けているからです。今回のノーベル平和賞に安倍首相の賛辞の言葉もありません。



日本政府は、核保有国が参加していないことや、北朝鮮の脅威を口実にしています。しかし、根本にあるのは、日本の安全をアメリカの核兵器に頼る「核の傘」政策にしがみついていることがあります。

「核兵器は」必要悪ではありません。絶対悪「抑止力」とは軍縮を抑止するもの（セツコ・サローさん）です。核兵器で平和は守れませんし、つくれません。

核兵器禁止条約に日本政府を参加させるためには、市民の声と行動が必要です。

ぜひ、被爆者がよびかける核兵器廃絶国際署名（「ヒバクシャ国際署名」）にご協力ください。（2018・1・6）